

平成28年3月

各 位

八戸市東京事務所長

## 八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート 平成28年3月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

さて、八戸では、3月13日に日曜恒例の館鼻岸壁朝市が開幕しました。昨年10月には八戸で全国朝市サミットが開かれ、全国最大規模を誇るこの朝市には、約250店が立ち並び、日の出とともに市内外から多くの方々が訪れて活気に満ちています。

八戸へお越しの際には、少し早起きをして賑わいの中をのんびりと歩いてみてはいかがでしょうか。

### ◎八戸特派大使の方々へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市政策推進課または八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: [tokyo@city.hachinohe.aomori.jp](mailto:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp)

# 八戸 3月号 レポート

平成28年2月の八戸市内での出来事や、八戸市に関連する情報をお届けします。

## 【行政】

No.	項目
1	八戸屋内スケート場 2019年秋のオープンを目指す
2	八戸ブックセンター(1階)設計変更 通路で分断 機能は維持
3	男女共同参画市民アンケート 男女平等感 全項目で低下
4	震災から5年 復興庁の青森事務所(八戸)を閉鎖へ
5	八戸市美術館建て替えへ 2019年度の完成を目指す

## 【産業】

No.	項目
6	八戸LNG基地 1年目30万トン出荷、7割は地元へ供給

## 【地域】

No.	項目
7	五郎丸ボースの縁 是川縄文館に五郎丸選手からサイン届く
8	沼館地区に人口干潟を整備 市民の交流・環境学習の場へ
9	八戸港で体長2メートル! 「大物」ハモ水揚げ
10	八戸市博物館で今夏「かっぱ展」開催 ~「メドツ」看板にまた会える~
11	八工大開発のドクターカーV3 走りだせず
12	「はっち」5周年記念セレモニー開催 200人が節目祝う
13	水産科学館マリエントで「地震津波写真展」開催 ~津波の記憶風化させず~
14	重要無形民俗文化財「八戸えんぶり」 ~春を呼ぶ力強い舞を披露~
15	八戸三社大祭の記録を電子化 写真や資料をインターネットで公開
16	道の駅なんごう 愛きょうたっぷりの野菜びなを展示

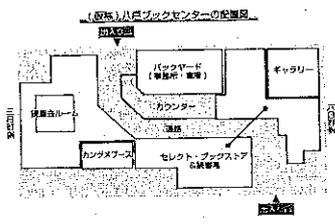
## 【文化・スポーツ】

No.	項目
17	~八戸のサバ料理食い尽くせ~ スタンプラリー初開催
18	八戸市と階上町が「日本遺産」に共同申請
19	ヴァンラーレ八戸 千葉高生デザインTシャツ販売へ
20	ヴァンラーレ八戸 はっちでキックオフセレモニー
21	八戸工高生 百人一首の全国学生コンクール・高校生世界コンクールで7人入選
22	八戸出身・江森葉子さんが小川未明文学賞優秀賞受賞!

## 【県内】

No.	項目
23	八戸市、青森市で24時間訪問介護開始へ
24	2012年子ども貧困率 青森県7~8位
25	青森県立保健大 「がん看護専門看護師」養成コースを開設
26	2015年度青森県調査 子どもの喫煙率 大幅減少

【 行政 】

No.	レポート
1	<p><b>八戸屋内スケート場 2019年秋のオープンを目指す</b></p> <p>小林眞八戸市長は、長根公園に整備を進めている屋内スケート場について、2019年秋のオープンを目指していることを明らかにした。スケート場は現在、建設地の造成工事が行われており、16年度から本体工事に着手する。小林市長は「着工すると完成まで30～33カ月なので、順調に進めば19年秋ごろ。20年には、こけら落としに国際大会を開きたい」と話し、今後、日本スケート連盟を通じて誘致活動を本格化させる考えを示した。</p>
2	<p><b>八戸ブックセンター(1階)設計変更 通路で分断 機能は維持</b></p> <p>八戸市は2月17日、中心街に建設中の民間複合ビル内に開設する「(仮称)八戸ブックセンター」の配置図を明らかにした。場所を2階から1階に移すことになり、既に終えていた基本設計を変更した。市は「施設内の機能は当初の予定通り」と説明、目指す方向性に影響がないことを強調した。</p> 
3	<p><b>男女共同参画市民アンケート 男女平等感 全項目で低下</b></p> <p>八戸市の第4次市男女共同参画基本計画(2017～21年度)の策定に向け実施した、市民アンケートの結果によると、2010年度の調査に比べ、男女が平等であると受け止めている回答が全項目で低下していた。特に「政治」「通念・慣習・しきたり」は「男性が優遇されている」との意識が強まっている。徐々に環境整備が進む一方で、男女の“格差”が根強い実態が浮かび上がった。</p>
4	<p><b>震災から5年 復興庁の青森事務所(八戸)を閉鎖へ</b></p> <p>復興庁は、八戸市に設置している同庁青森事務所を3月末で閉鎖すると発表した。青森事務所は2012年2月の復興庁発足と同時に、県八戸合同庁舎内に開設され、職員は3人。県や被災自治体の八戸、三沢、おいらせ、階上の4市町と同庁をつなぐ窓口として復興事業の調整などを担ってきた。これまで県と4市町に対し、国費ベースで55億円の復興交付金を配分した。同庁によると、青森県内の復興事業が進み、完了のめどが付いたためとしている。</p>
5	<p><b>八戸市美術館建て替えへ 2019年度の完成を目指す</b></p> <p>八戸市は、市庁舎東側にある市美術館を解体し、跡地一帯に2019年度を目標に新美術館を整備する。美術館内に16年度、「(仮称)新美術館建設推進室」を設置し、専門家による検討委員会を組織して整備基本構想を策定するとともに、建物本体等の基本設計を実施。17年度から実施設計と現美術館等の解体を行う。ミュージアムショップやカフェの整備も検討する。2月29日の市議会一般質問で小林眞市長が明言した。</p>

【 産業 】

No.	レポート
6	<p><b>八戸LNG基地 1年目30万トン出荷、7割は地元へ供給</b></p> <p>八戸市豊洲のポートアイランドに立地する北東北最大の液化天然ガス(LNG)輸入基地「八戸LNGターミナル」が、4月で操業開始から1年を迎える。2015年度の出荷量は約30万トンで、うち約7割が地元への供給となる見通しである。市内が先行するのは、八戸火力発電所でLNGへの燃料転換を図った東北電力と大口契約を結ぶため。小口の利用だが、臨海部で燃料転換を図る工場も徐々に増え始めており、関係者はさらなる利用促進に期待を寄せる。</p>

【地域】

No.	レポート
7	<p><b>五郎丸ポーズの縁 是川縄文館に五郎丸選手からサイン届く</b></p> <p>八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館のマスコットキャラクターにラグビージャージを着せた置物「八郎丸いのるん」あてに、ラグビーW杯2015日本代表の五郎丸歩選手直筆のサイン色紙が届いた。八郎丸の姿が五郎丸選手のポーズに似ていると話題になっているため、八戸学院大ラグビー部ヘッドコーチの山下祐史さんが、日本代表時代にチームメイトだった五郎丸選手に「八郎丸」の話題を伝えたところ、快くプレゼントしたという。サインは館内に展示され、関係者は色紙効果による来館者増に期待している。</p> 
8	<p><b>沼館地区に人口干潟を整備 市民の交流・環境学習の場へ</b></p> <p>東北地方整備局八戸港湾・空港整備事務所は、沼館地区に青森県と共同で人工干潟を整備する方針を明らかにした。大型商業施設「シンフォニープラザ沼館」の向かいで、広さは約千平方メートルで、2016年後半に工事に着手し、17年度の利用開始を目指す。商業施設に近い立地を生かし、市民の交流や環境学習の場を想定、アサリの生息する干潟とする。利用開始後は、水質や生物の生息状況などを継続的に調べ、八戸港内で同様の取り組みを実施する場合のモデルとする。</p>
9	<p><b>八戸港で体長2メートル! 「大物」ハモ水揚げ</b></p> <p>八戸港第2魚市場に9日朝、体長約2メートルのハモとみられる魚が揚がり、大蛇のような長い魚体が仲買人らを驚かせた。岩手県籍の中型底引き網船が同港前沖の水深約250メートルで漁獲、体長約2メートル、腹回り39センチ、重さは20キロ近くあり、大きく裂けた口と鋭い歯をもっていた。魚類学図鑑では、ハモは最大2.2メートルになるとされ、今回のハモは最大級の大きさといえる。食味の良さあしが不明なためか、競りでは千円で競り落とされ、値段も“大物”とはならなかった。</p> 
10	<p><b>八戸市博物館で今夏「かっぱ展」開催 ～「メドツ」看板にまた会える～</b></p> <p>「メドツが出るぞ」かつて用水路があった場所に設置され、約40年にわたって水遊びを戒め、事故から子どもを守ってきた看板が、今夏に市博物館が開催する特別展「かっぱ展」で再び披露される。メドツは八戸地方の方言でカッパの意味。看板は、開発によって用水路が消えたため、昨年3月に撤去されていた。市博物館は「市民の思い入れの深い看板を大切に保管したい。特別展では子どもたちをはじめ、多くの市民に地元の伝説を知ってほしい」と期待する。</p>
11	<p><b>ハ工大開発のドクターカーV3 走りだせず</b></p> <p>人工心肺装置を備え、出勤先で心筋梗塞など心肺停止状態の患者の治療を可能とし、昨年11月末に運行をスタートさせる予定だった全国初のドクターカー「V3」だが、青森県が運用をめぐり、医療法上の“手術室”に当たる可能性を指摘し、国に照会しているため運行できずにいる。救命率を向上させる心強い味方として期待されるV3だが、思わぬ形で足踏みを強いられている。</p>
12	<p><b>「はっち」5周年記念セレモニー開催 200人が節目祝う</b></p> <p>八戸市が運営する八戸ポータルミュージアム「はっち」が2月11日に開館5周年を迎え、1階「はっちひろば」で記念セレモニーが開かれた。はっちは、2011年2月11日にオープン。開館1カ月後に発生した東日本大震災の際は臨時避難場所として活用された。この日は関係者や市民ら約200人がセレモニーなどを通じて、これまでの歩みを振り返り、節目を祝った。開館以来の来館者数は約466万4800人となっている。</p>

13	<p><b>水産科学館マリエントで「地震津波写真展」開催 ～津波の記憶風化させず～</b></p> <p>八戸市水産科学館マリエントで、東日本大震災当時の様子を撮影した「地震津波写真展」が開かれている。津波の記憶を風化させず、災害に対処する心構えを持ち続けてもらおうと、震災の翌年から毎年開催。今回で5回目を迎えた。津波による被害の状況を写した写真約100点のほか、同館の職員と八戸海上保安部が撮影した映像も公開している。3月21日まで。</p>
14	<p><b>重要無形民俗文化財「八戸えんぶり」 ～春を呼ぶ力強い舞を披露～</b></p> <p>国の重要無形民俗文化財・八戸えんぶりが、2月20日に4日間の日程を終えて閉幕した。更上閣で行われた「お庭えんぶり」では、冷たい雨が降る中、内丸えんぶり組と横町えんぶり組が待ち遠しい春を呼び込むように力強い舞を披露した。内丸えんぶり組はテンポの速い「どうさいえんぶり」、横町えんぶり組はゆっくりとした動きが特徴の「ながえんぶり」を披露。趣が異なるそれぞれのえんぶりを堪能した観客からは盛んな拍手が送られた。八戸観光コンベンション協会によると、期間中の入り込み数は23万3千人で、昨年を1万6千人下回った。4日間のうち3日が雨天だったことが影響したとみられる。</p>
15	<p><b>八戸三社大祭の記録を電子化 写真や資料をインターネットで公開</b></p> <p>青森県の歴史や文化に関する記録を電子化し、後世に残す取り組みを進める「あおもりデジタルアーカイブ・コンソーシアム」(ADAC)が、八戸三社大祭の写真や資料をインターネットで公開するサイト「八戸三社大祭デジタルアーカイブ」を構築した。祭りに関する古写真や過去の記録など4万5065点を集め、うち3万5648点を電子化。2月11日から、現時点で公開できる1万3211点をサイトに載せた。サイトの公開を記念し、ADACは2月21日に八戸パークホテルでシンポジウムを開き、祭りを地域活性化につなげるための方策などを議論した。</p>
16	<p><b>道の駅なんごう 愛きょうたっぶりの野菜びなを展示</b></p> <p>八戸市の道の駅なんごうに、地元の野菜や果物で作った「農のおひなさま」が今年も飾られ、愛きょうたっぶりの表情で来館者を楽しませている。南郷地区の農家で作る産直グループ「ヤッサいなんごう友の会」の会員約80人が、十数年前から行っており、2月23日に材料を持ち寄って、お内裏さまや三人官女など10体を手作りした。今年は変わりびなとして、ラグビー五郎丸選手のおなじみのポーズをモチーフにした人形も登場した。訪れた人たちは鮮やかな色合いの人形を眺め、一足早くひな祭り気分を味わっていた。</p> 

【文化・スポーツ】

No.	レポート
17	<p><b>～八戸のサバ料理食べ尽くせ～ スタンプラリー初開催</b></p> <p>八戸前沖さばブランド推進協議会は2月15日から3月15日まで、「鯖コンボ2016～八戸の鯖を食い尽くせ」と題し、八戸市内16店舗でのスタンプラリーを初開催する。380円のサバの一品料理や3800円のコースなどを各店が提供し、各参加店や観光施設で入手できるパンフレットにスタンプを押し、スタンプ数でサバ製品などが抽選で当たる仕組みとなる。来年以降も継続する予定となっており、サバ料理や味わえる飲食店などを知ってもらうことで、地産地消の拡大や観光振興につなげる考えである。</p>

18	<p><b>八戸市と階上町が「日本遺産」に共同申請</b></p> <p>地域の伝承や風習などに基づく「ストーリー」を通じ、点在する文化財や名所を地域の魅力として一体的に発信する、文化庁の「日本遺産」の第2弾の公募に、八戸市と階上町は「ヤマセと馬が生んだ風俗と景観」と題して共同申請した。両市町が申請したストーリーは、厳しい自然と共存しながら生まれた「ヤマセと馬にまつわる文化」に着目し、同地域の粉食文化、民俗芸能、海岸の風景などを紹介する。文化庁は4月に有識者委員会で約20件を認定する。</p>
19	<p><b>ヴァンラーレ八戸 千葉高生デザインのTシャツ販売へ</b></p> <p>八戸市の千葉学園高生活文化科の生徒が、サッカーJFLのヴァンラーレ八戸をモチーフとしたTシャツをデザインした。ヴァンラーレはこれまでもTシャツを販売してきたが、高校生によるデザインは初めてで、「チームに興味を持つきっかけになれば」と、依頼を決めた。約40通の応募の中からチームが9点を選び、ラピアでデザイン画の人気投票が実施され、澤居真希子さん(3年)の作品の商品化が決まった。3月20日のホーム開幕戦で発売予定。売り上げの一部はチームの強化費になる。</p>
20	<p><b>ヴァンラーレ八戸 はっちでキックオフセレモニー</b></p> <p>日本フットボールリーグ(JFL)のヴァンラーレ八戸は2月21日、はっちで「2016シーズンキックオフセレモニー」を開催した。27選手がサポーターの前で意気込みを発表、サインに応じるなど、交流を深めた。会場にはサポーター有志が作った横断幕が飾られた。選手が入場すると、来場者からは大歓声。菅井拓也主将は「皆さんの声援を力にしたい。共にJリーグに行きましょう」とあいさつ。ほかの選手も今季の意気込みを発表。新加入のFW村上聖弥選手は「熱いプレーを見せて、たくさんゴールを決めたい」と、ゴール量産を約束した。</p>
21	<p><b>八戸工高生 百人一首の全国学生コンクール・高校生世界コンクールで7人入選</b></p> <p>八戸工業高の生徒3人が、全国の学生を対象に短歌を募る「現代学生百人一首」(東洋大主催)で入選し、同校初の学校特別賞に選ばれた。また、世界の高校生を対象に短歌を募集する「SEITO百人一首」(同志社女子大主催)では4人が入選し、学校特別賞を5年連続で受賞した。同校は2011年から、国語の授業で短歌制作を開始し、国語科の教員が指導。ことしは全校生徒729人が両コンクールに出品した。</p>
22	<p><b>八戸出身・江森葉子さんが小川未明文学賞優秀賞受賞!</b></p> <p>新人児童文学作家の発掘を目指す第24回小川未明文学賞(新潟県上越市、小川未明文学賞委員会主催)の受賞作が決まり、八戸市出身の江森葉子さん(千葉県市川市在住)の「停車場通りのものがたりーみんな、生きた。昭和10年オムニバス」が最高賞の大賞に次ぐ優秀賞に選ばれた。同文学賞は、上越市出身の児童文学作家小川未明の文学精神を継承し、新しい時代にふさわしい創作児童文学作品を輩出する目的で平成4年に創設された。今回は全国から487編の応募があった。</p>

【 県 内 】

No.	レポート
23	<p><b>八戸市、青森市で24時間訪問介護開始へ</b></p> <p>ホームヘルパーや看護師が24時間対応で高齢者住宅を訪問する介護保険の「定期巡回・臨時対応サービス」が2016年度、青森県内で初めて青森市と八戸市で実施される見込みとなった。24時間対応の同サービスは、施設から在宅中心の介護への移行を促すため、12年度の介護保険制度改正で創設された。ヘルパーや看護師が1日に複数回、定期的に訪問するだけでなく、緊急時には深夜や早朝でも駆けつける。八戸市では、「社会福祉法人同伸会」と「(株)ビリーブケアサポート」が事業者として選定された。</p>

24	<p><b>2012年子ども貧困率 青森県ワースト8位</b></p> <p>18歳未満の子どもがいる世帯のうち、生活保護費以下の収入で暮らしている家庭の割合を示す「子どもの貧困率」(2012年)が、青森県は17.6%、岩手県は13.9%と、全国平均を上回っていることが分かった。都道府県別の子どもの貧困率が明らかになったのは初めて。青森はワースト8位で、1992年以降、全国平均を上回る状態が続いており、子どもの貧困の深刻さがあらためて浮き彫りになった。</p>
25	<p><b>青森県立保健大 「がん看護専門看護師」養成コースを開設</b></p> <p>青森県立保健大は2016年度、県内で初めて「がん看護専門看護師」養成コースを大学院に開設する。同専門看護師は、がん患者とその家族に対するケアの中心的存在。青森県は男女ともに寿命が日本一短く、がん対策は重要課題だが、全国の都道府県で唯一、同専門看護師が不在となっている。16年度の受講者はないため、開講は事実上17年度からで、16年9月と17年2月の2回、受講者を募集する予定。</p>
26	<p><b>2015年度青森県調査 子どもの喫煙率 大幅減少</b></p> <p>青森県が2015年度実施した未成年者喫煙実態調査で、中学1年、中学3年、高校3年の喫煙率は前回調査(11年度)、前々回調査(07年度)に比べいずれも減少したことが分かった。特に高3は前回調査の約2分の1、前々回の約5分の1に激減した。調査結果は、青森市で開かれた未成年者喫煙防止対策検討会で報告された。検討会では、教育関係者から「たばこを吸わない機運が高まっている」との声のほか「青森県の大人の喫煙率が全国ワースト水準なので、職場で吸わないようにする取り組みが必要では」との意見が出された。</p>